

## 朝夕刊

2020年4月29日 朝刊

### 消毒いつまで 業者「マスク備蓄、もたない」



防護服やゴーグルなど完全防備で消毒の様子を実演する技術者＝浜松市中区で

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、消毒業者が多忙になっている。消毒のプロたちは恐怖心を抱きながらも、「尻込みはできない」と作業に当たっている。ただ不可欠のマスクなどがいつまでも潤沢にある保証はなく、いずれ要請に応えられなくなる「消毒崩壊」が起きると心配する声もある。

「あしたも、あさっても消毒作業が入ってます」

衛生管理会社マルマ（浜松市中区）の鈴木雅太郎社長（52）が言う。五十センチほどのノズルがついた噴霧器で感染者が出たオフィスの壁や機器、座席にアルコール液を吹き付け、布で隅々までふく。すでに東京から大阪まで赴き消毒してきた。

長らく食中毒を起こした飲食店、病院の手術室の定期消毒を手がけてきた。分子生物学を修めた博士から、ベストコントロール技術者の有資格者まで人材は八十人超。だがコロナ消毒の相談件数は百件に上る。

相手は未知のウイルスだけに鈴木社長も「私たちが感染しないことが第一」。社員を守る“よろい”は半世紀、培ったノウハウだ。

消毒を終え、防護服やマスクを外す時、手などにウイルスを付けないよう監督する人を必ず付け、万全を期す。「尻込みせず安心を届けたい」と話すが仕事が増え、社員に疲れがたまった時ほど不測の事態が起きかねない。体調や勤務状況にも細心の注意を払う。

消毒作業のためダイヤモンド・プリンセス号に向かうリスクベネフィットの社員＝3月19日、横浜市で（同社提供）



消毒作業のためダイヤモンド・プリンセス号に向かうリスクベネフィットの社員=3月19日、横浜市で(同社提供)

二十四社が会員に名を連ねる静岡県ベストコントロール協会によると、三月半ば以降、「感染者が出たらどうしたら?」「業者を頼むには」などの相談が急増。今でも日に十件はある。

会員によるコロナ消毒の実績も、協会が把握するだけで県内外で計十七件(二十七日現在)に。協会は備蓄する防護服やマスク、ゴーグル、靴カバーの四点セットを、会員企業の社員が出勤して使うたび同数を宅配で届けてきた。五百セットあったが、すでに百セット超を消費した。「この先も確保できるか。底をつけば確保は会員の自助努力に委ねるしかない」と明かす。

「いずれ除染(消毒)崩壊が起きかねない」と話すのはダイヤモンド・プリンセス号の船内消毒をしたリスクベネフィット(富士宮市)の惟村(これむら)徹社長(37)。

社員五人が一週間、消毒にあたった。惟村社長は「社員も怖かっただろう」と振り返る。まず自ら船内に入り安全を守るか確認した上で、事細かに動き方を指示したという。

同船の消毒を手がけたこともあり、相談は一日二百件に上る。できる限り対応しているが、「社員を守る高性能マスクがいつまでもつか」と不安を隠さない。資材不足で社員を守れなくなったら、「仕事は引き受けない」と言い切る。

惟村社長は「感染者が出ても、長い間オフィスを閉鎖できるなら必ずしも消毒は必要ない。企業には消毒ありきでなく閉鎖も検討してほしい」と呼び掛ける。

(勝間田秀樹)

今、あなたにオススメ

Recommended by

<p><b>トヨタ、5月も大幅減産 国内完成車15工場で停止へ</b> (2020年4月16日)</p>	<p><b>図書館、再開へ難題 「知る自由」保障と感染防止</b> (2020年5月6日)</p>
<p><b>自宅で、とこわかダンス 三重大・後藤教授「楽しく踊って」</b> (2020年5月6日)</p>	<p><b>保護猫に出会いの空間 高山の五十嵐さん、開設へ資金募る</b> (2020年5月6日)</p>
<p><b>子宮頸がんをなくすために 本庶教授の訴え(上) 森若奈(社会部)</b> (2020年5月3日)</p>	<p><b>DMMの原点 KC10日閉店 加賀の複合施設</b> (2020年4月30日)</p>
<p><b>医師の夫「更年期太りは腸活でガリガリに?」朝1つの習慣が簡単すぎて大炎上</b> AD (HEALTH UP on ダイエット特集18)</p>	<p><b>最大3600万円の給付金がもらえる! 肝臓の悩み、給付金調べましたか?</b> AD (ベリーベスト法律事務所)</p>